

令和7年度 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会実施報告書 (就業技術科、肢体不自由教育部門)

1 東京都立志村学園 学校運営連絡協議会の構成について

(1) 協議委員

創価大学准教授、明治学院大学講師

都立特別支援学校校長、板橋区立小学校校長、板橋区立中学校校長

板橋区肢体不自由児者父母の会副会長、就業技術科卒業生保護者代表

肢体不自由教育部門PTA会長、就業技術科フォーSの会会長 計9名

(2) 評価委員

協議委員より4名選任

創価大学准教授、明治学院大学講師、肢体不自由教育部門PTA会長、就業技術科フォーSの会会長

(3) 内部委員の構成

校長、副校長(3人)、経営企画室長、教務等を担当する主幹教諭 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)開催日時、内容等

○第1回 令和7年6月10日(火) 協議委員8名、内部委員8名

学校長挨拶、委員紹介、本年度の学校経営計画について

本年度の取組について 校内見学 意見交換

○第2回 令和7年10月28日(火) 協議委員8名 内部委員8名

学校長挨拶、学校評価の進め方(評価項目・評価方法・日程等)について

授業参観 意見交換

○第3回 令和8年2月18日(水) 協議委員6名 内部委員8名

学校長挨拶、学校経営計画進捗状況報告、学校評価結果報告

学校評価に関する検討、提言について 意見交換

(2) 評価委員会

○第1回 令和7年6月10日(火) 評価委員3名 内部委員3名

副校長挨拶、今年度の学校評価の進め方について(提案及び検討)

○第2回 令和7年10月28日(火) 評価委員4名 内部委員3名

副校長挨拶、今年度の学校評価の項目と基本方針の再確認

○第3回 令和8年2月18日(水) 評価委員3名 内部委員3名

今年度の評価結果の分析について、校長への提言、職員会議での全教職員に対しての提言内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

1 学習指導 2 学習環境 3 心理的ケア(就業技術科) / 医療的ケア(肢体不自由教育部門)

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

【 就業技術科 】

対象	対象人数	回収数	回収率
生徒	230人	218人	94.7%
保護者	229人	199人	86.8%
教職員	74人	74人	100%

【 肢体不自由教育部門 】

対象	対象人数	回収数	回収率
児童・生徒	35人	34人	97.0%
保護者	98人	96人	98.0%
教職員	86人	86人	100%

※1) 準ずる教育課程、知的障害を併せ有する
児童・生徒の教育課程の児童・生徒を対象

(3) 評価実施方法

学校評価アンケート回答方法は、MicrosoftOffice365 FORMS を用いたアンケート及び紙媒体、マチコミメール、電子連絡帳（肢体不自由教育部門）を活用した。保護者においては、回答前に各質問項目の説明資料を閲覧できるようにした。また、回答を記名式にし、児童・生徒・保護者・教職員（行政系含む）に実施した。3つの観点ごとに自由記述欄を設け、選択項目だけでは図りにくい意見をいただけるようにした。

(4) 分析方法

令和6年度に引き続き、学校評価を大きく3つの項目ごとに分析した。それぞれの質問項目については、4～0の回答（4：そう思う、3：どちらかといえばそう思う、2：どちらかといえばそう思わない、1：そう思わない、0：わからない）のうち4～1の回答数を分母として各回答割合（%）を示す。また、令和5年度との比較も行った。

(5) 評価結果（単位：%）（上段：R7／下段：R6） 肯定的回答率90%未満 Q

1 学習指導

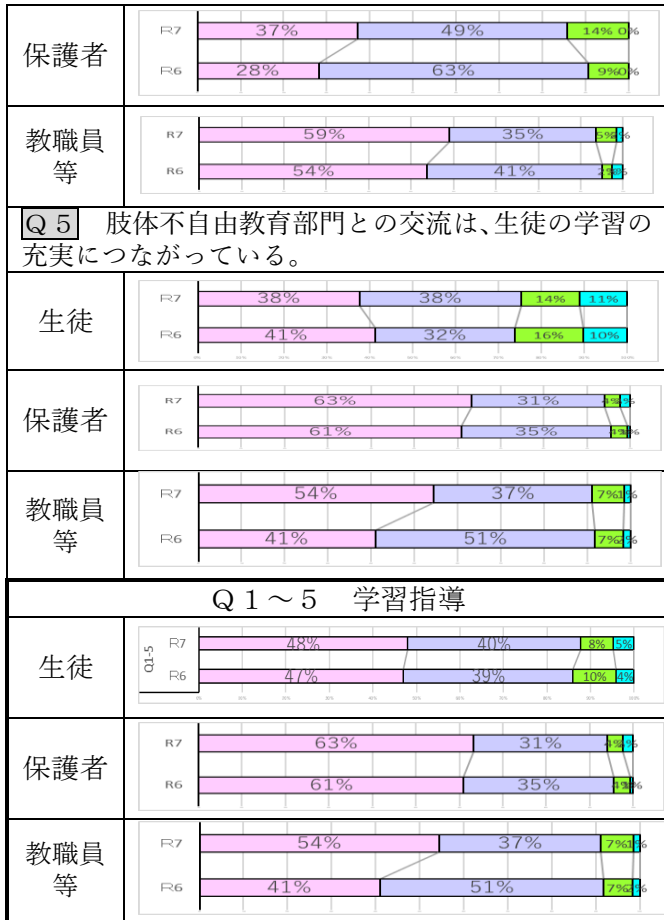
【 就業技術科 】

Q1 学校は、人権（生徒指導、個人情報管理等）に配慮した教育を行っている。	
生徒	R7: 49% (4), 42% (3), 5% (2), 3% (1), 3% (0) R6: 54% (4), 35% (3), 9% (2), 1% (1), 1% (0)
保護者	R7: 71% (4), 25% (3), 3% (2), 1% (1), 0% (0) R6: 72% (4), 24% (3), 3% (2), 1% (1), 0% (0)
教職員等	R7: 68% (4), 30% (3), 1% (2), 1% (1), 0% (0) R6: 73% (4), 27% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
Q2 個別指導計画に基づいて、生徒一人一人の課題に応じた目標を示し、評価している。	
生徒	R7: 50% (4), 42% (3), 8% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 41% (4), 48% (3), 11% (2), 0% (1), 0% (0)
保護者	R7: 67% (4), 31% (3), 2% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 66% (4), 31% (3), 3% (2), 0% (1), 0% (0)
教職員等	R7: 43% (4), 52% (3), 5% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 42% (4), 53% (3), 5% (2), 0% (1), 0% (0)
Q3 様々な専門性をもつ外部人材等から授業改善の助言を受け、質の高い授業づくりに活かしている。	
生徒	R7: 56% (4), 39% (3), 3% (2), 3% (1), 0% (0) R6: 58% (4), 37% (3), 3% (2), 0% (1), 0% (0)
保護者	R7: 72% (4), 26% (3), 1% (2), 1% (1), 0% (0) R6: 73% (4), 25% (3), 1% (2), 0% (1), 0% (0)
教職員等	R7: 52% (4), 44% (3), 3% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 54% (4), 45% (3), 3% (2), 0% (1), 0% (0)
Q4 Teamsを通じた様々な学習課題の配信、ICT機器を活用した教育を適切に行っている。	
生徒	R7: 46% (4), 39% (3), 9% (2), 6% (1), 0% (0) R6: 38% (4), 42% (3), 13% (2), 7% (1), 0% (0)

【 肢体不自由教育部門 】

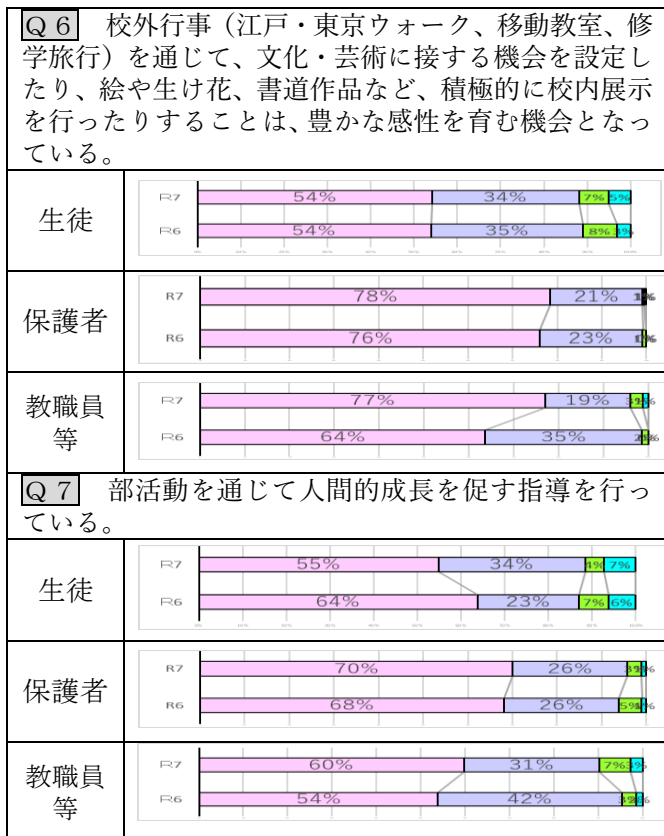
Q1 学校は、人権（生徒指導、個人情報管理等）に配慮した教育を行っている。	
児童・生徒	R7: 89% (4), 11% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
保護者	R7: 85% (4), 14% (3), 1% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 85% (4), 15% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
教職員等	R7: 78% (4), 22% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 75% (4), 24% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
Q2 個別指導計画に基づいて、児童・生徒一人一人の課題に応じた目標を示し、評価している。	
児童・生徒	R...: 94% (4), 6% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
保護者	R7: 81% (4), 18% (3), 1% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 87% (4), 12% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
教職員等	R7: 75% (4), 24% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 72% (4), 25% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0)
Q3 外部専門家（理学療法士、作業療法士、視機能訓練士、言語聴覚士、音楽療法士、学習アドバイザー）から授業改善の助言を受け、質の高い授業づくりに活かしている。	
児童・生徒	R7: 81% (4), 13% (3), 6% (2), 0% (1), 0% (0)
保護者	R7: 75% (4), 24% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 71% (4), 26% (3), 3% (2), 0% (1), 0% (0)
教職員等	R7: 71% (4), 29% (3), 0% (2), 0% (1), 0% (0) R6: 74% (4), 23% (3), 3% (2), 0% (1), 0% (0)
Q4 小学部・中学部はGIGA端末、高等部は一人1台端末を用いた授業づくりを進め、ICT機器を活用した教育を適切に行っている。	
児童・生徒	R7: 83% (4), 11% (3), 6% (2), 0% (1), 0% (0)

【 就業技術科 】

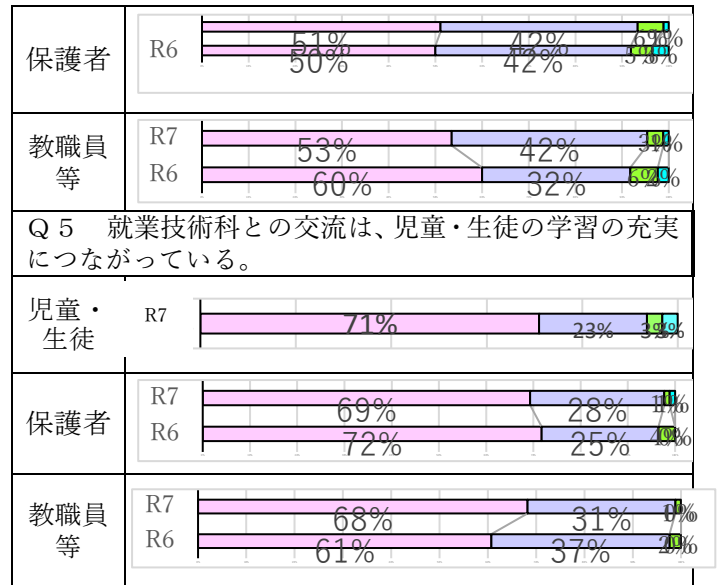


2 学習環境

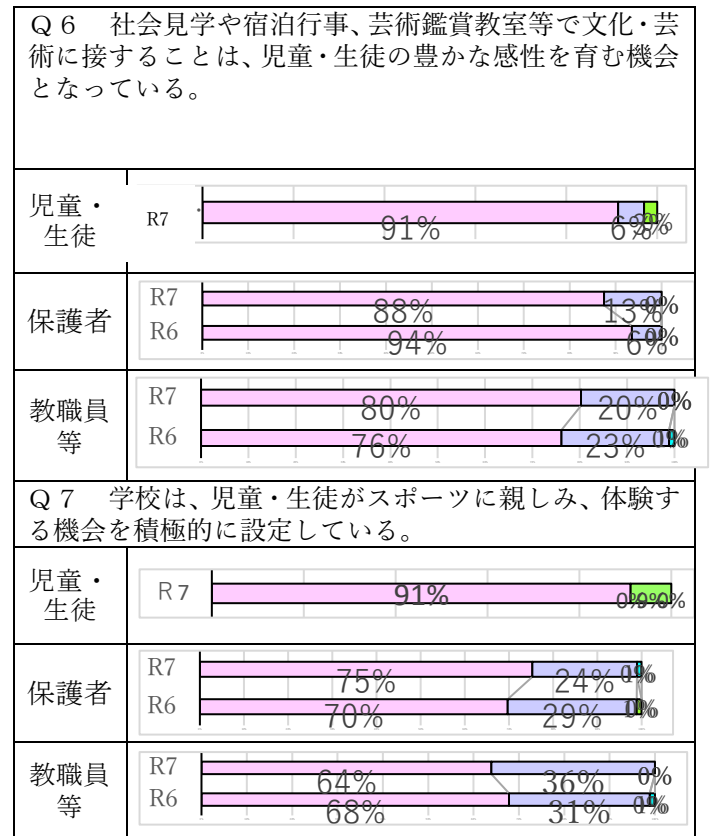
【 就業技術科 】



【 肢体不自由教育部門 】

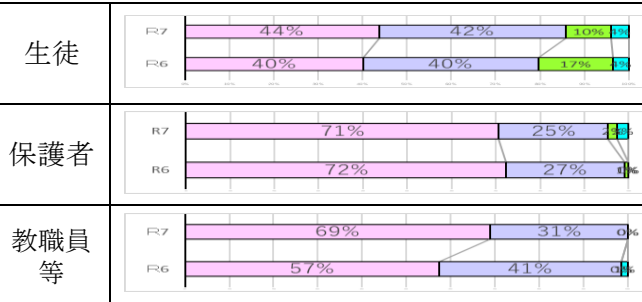


【 肢体不自由教育部門 】

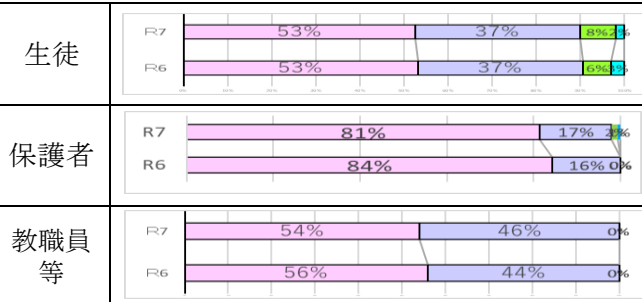


【 就業技術科 】

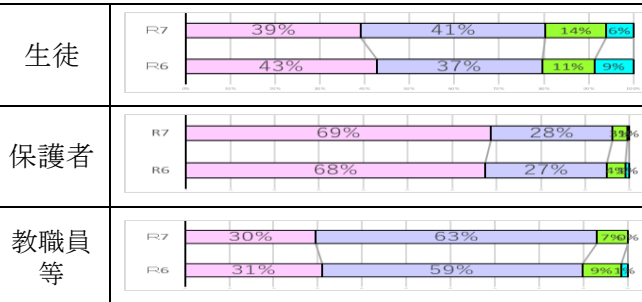
Q 8 学校は、基本的な感染症対策と情報発信を適切に行っている。



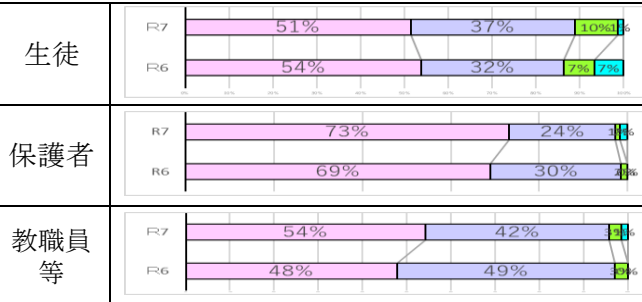
Q 9 学校は、4S（整理・整頓・清潔・清掃）を徹底し、生徒が学習しやすい環境を整えている。



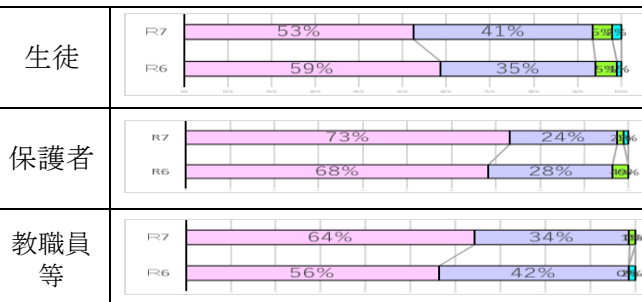
Q10 教職員の言動、ふるまい、服装などは、生徒のロールモデルになっている。



Q11 月1回の避難訓練を通し、大規模災害を想定した防災教育を行うことで、生徒の防災意識が高まっている。

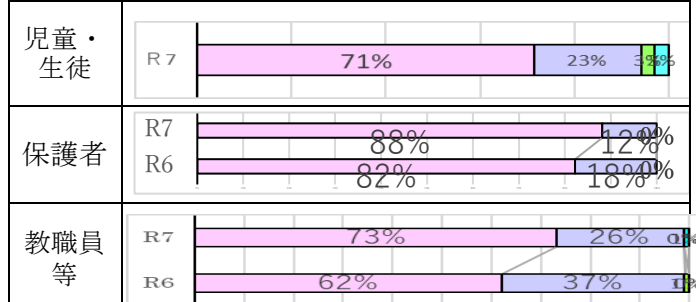


Q12 企業就労に向けた相談や進路指導は、保護者、企業、ハローワーク等との適切な連携のもと、実施されている。

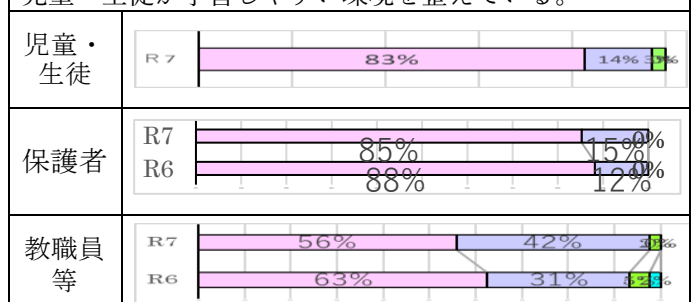


【 肢体不自由教育部門 】

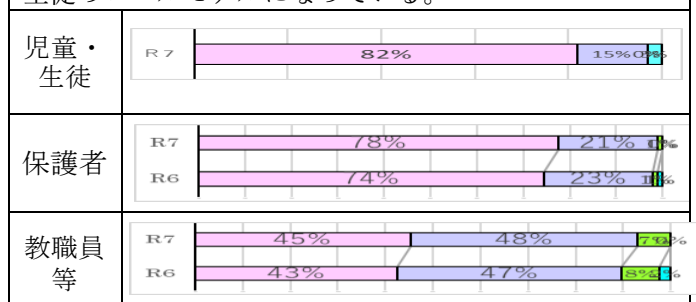
Q 8 学校は、基本的な感染症対策と情報発信を適切に行っている。



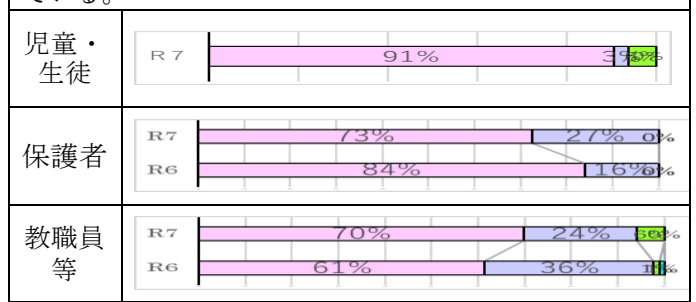
Q 9 学校は、4S（整理・整頓・清潔・清掃）を徹底し、児童・生徒が学習しやすい環境を整えている。



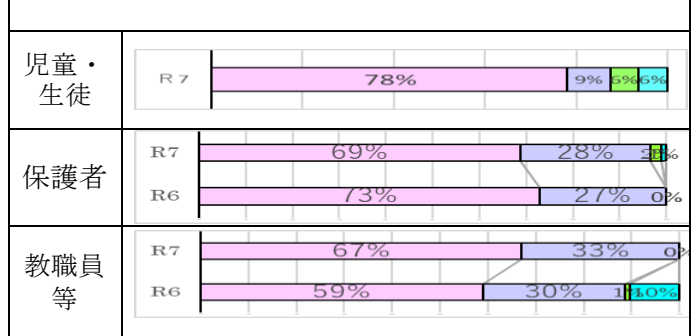
Q10 教職員の言動、ふるまい、服装などは、児童・生徒のロールモデルになっている。



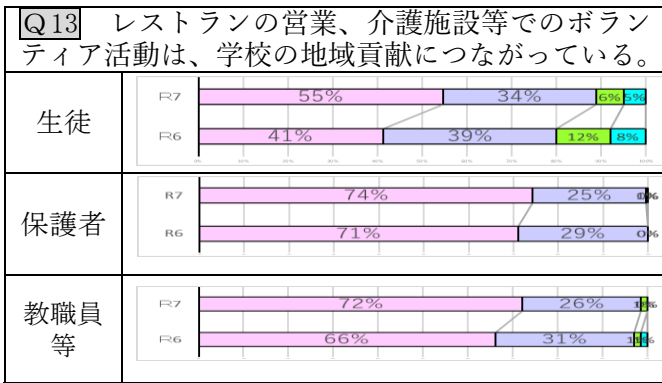
Q11 月1回の避難訓練など、大規模災害を想定した防災教育を行うことで、児童・生徒の防災意識が高まっている。



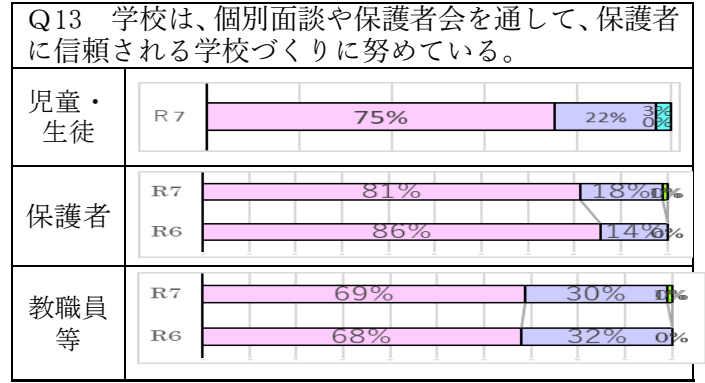
Q12 進路説明会や進路相談は、保護者や行政、進路先等との適切な連携のもと、実施されている。



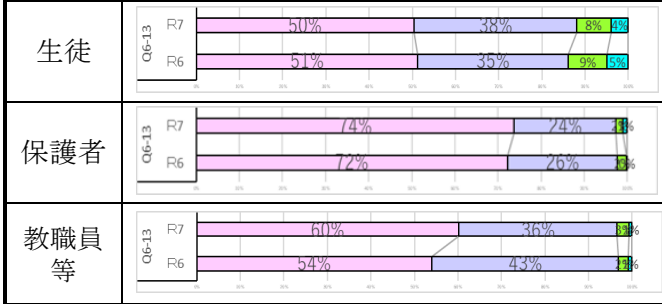
【 就業技術科 】



【 肢体不自由教育部門 】

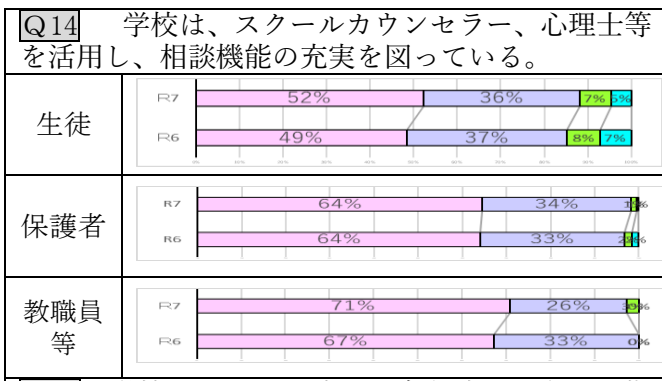


Q6~13 学習環境

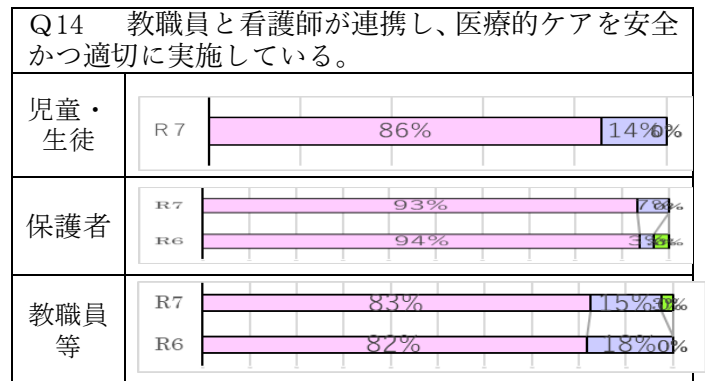


3 心理的ケア(就業技術科)/ 医療的ケア(肢体不自由教育部門)

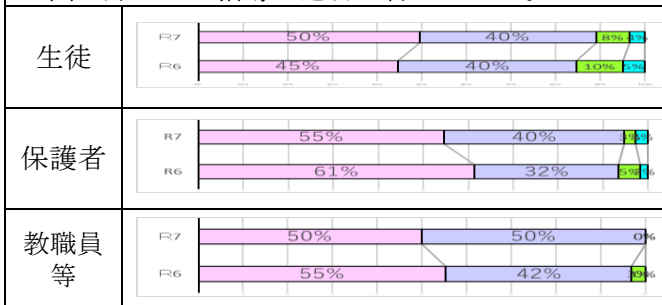
【 就業技術科 】



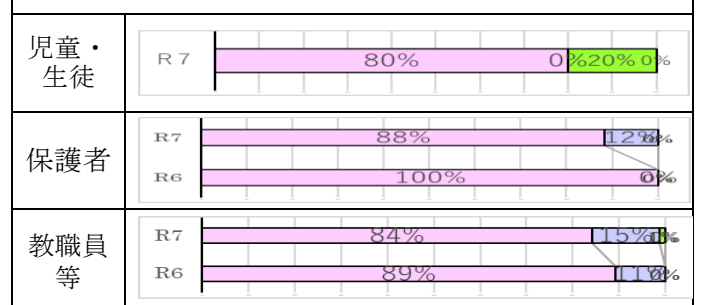
【 肢体不自由教育部門 】



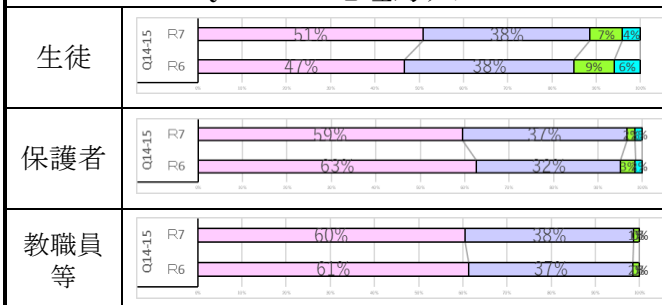
Q15 学校は、いじめ防止、自殺防止に向けた指導・支援とともに、生徒の悩みや心配事の相談、SOSの出し方などの指導を適切に行っている。



Q15 学校は、医療的ケア専用通学車両を、安全に運行している。



Q14~15 心理的ケア



4. 学校運営連絡協議会 提言

令和8年2月18日の職員連絡会において、学校運営連絡協議委員会評価委員長より、全教職員に向けて提言を受けた。(以下、全文)

令和7年度は、これまでの教育活動を基に、継続した教育活動を展開していく年となりました。今年度の学校評価は、昨年度からの経過を踏まえた上で受け止めていかなくてはなりません。

保護者アンケートの回収率について、就業技術科で昨年度よりも若干下がったものの、両部門ともに保護者の学校経営への参画への意識の高さが伺えます。昨年度と同様に、学校評価の実施方法や回答期間を工夫し、より多くの意見を取り入れられるように改善したことは、日頃、志村学園が学校運営や教育活動について、常に向上意欲を成果としてあげているものと感じております。

今回の学校評価の結果を踏まえ、次年度に向けて以下のとおり提言します。

1. 「学習指導」に関しては、いずれの項目においても、保護者、教職員ともに概ね肯定的な評価がなされてきました。
就業技術科では、「人権尊重教育推進校」として取り組んだ生徒の相互理解を基にし、ICT機器の活用により、生徒の主体的な学びを促進してください。
肢体不自由教育部門では、今年度実施した公開研究会での学びを基に、小中高と系統的に学習を進めていくためのシステムの構築を計画的に行ってください。
2. 両部門ともに共通していたのは、「部門間の交流」についてです。今年度は、日常の学習活動中での交流場面が増え、協働学習的な側面をもった活動も行っている様子がみられました。引き続き、肢体不自由教育部門と就業技術科が併置されている学校の良さを生かし、児童・生徒の実態や段階に応じた交流の機会の設定と、協働学習的な活動を計画し推進してください。
3. 就業技術科では、生徒が主体的に活動する場面をさらに増やし、生徒が自ら学校を作り上げていく意識を高めてください。
4. 「学習環境」に関しては、ロールモデルの項目において、両部門共に教職員自身の課題意識が見受けられます。児童・生徒たちの身近な大人のモデルとして、引き続き教職員自身の課題意識や学び続ける姿勢を児童・生徒に示せるよう指導を展開してください。
5. また、両部門ともに、行事や進路についての情報発信をさらに充実して行ってください。
6. 「心理的ケア」(就業技術科)に関しては、昨今の心理的課題をもつ生徒の増加を踏まえ、相談機能の充実はますます重要となってきます。スクールカウンセラーや心理士等を活用して特別支援学校としての専門性を高め、先生方の相談力を向上させるとともに生徒の課題解決力を高めていけるような指導につなげてください。
7. 「医療的ケア」(肢体不自由教育部門)に関しては、いずれの項目も高く評価されています。今後とも都のガイドラインに則り、保護者とのより一層緊密な連携、協力のもと、校内では多職種との連携をさらに強め、安心・安全な医療的ケアの推進をお願いします

令和8年度、志村学園が一丸となって児童・生徒への教育の充実を進めていかれることを期待しております。